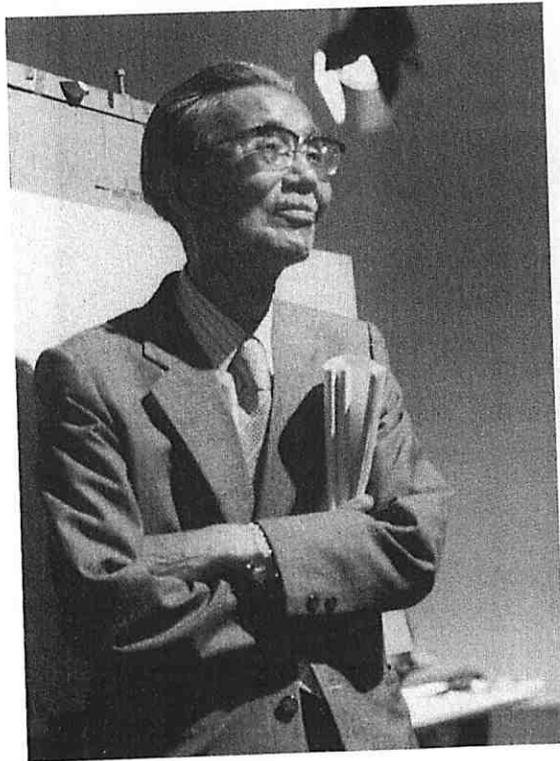


『福本和夫著作集』  
完結記念の集い  
報告集



2011年5月21日

於 東京・学士会館

「福本和夫著作集完結記念の集い」実行委員会

頒価800円

出席者名簿 4

発言

- ミヒヤエル・ブックミラー（代読） 15
- 石見 尚 7      粕谷一希 8      八木紀一郎 10
- 青山孝徳 14      松本昭夫 17      福井眞佐汎 19
- 加藤哲郎 20      中村英樹 22      夏石番矢 23
- 松枝 到 25      伊藤 晃 26      丸山珪一 29
- 水田 洋 31      高幣秀知 32      西井雅彦 33
- 福本逸子 34      清水多吉 35

集いに寄せられたメッセージ

- 石川九楊 38      紀田順一郎 39      来栖宗孝 40

集いに寄せられたひと言

- 辻井 喬 40      鶴見太郎 41      永田生慈 41
- 四方田犬彦 42      横井茂紀 42
- 青木孝平 43      石塚省二 43      市川 宏 43
- 犬丸義一 43      岩淵達治 43      金沢直哉 43
- 荏部 直 44      北村 実 44      木村勝造 44
- 谷口義介 44      中岡哲郎 44      中園成生 44
- 中野徹三 44      野沢敏治 44      花澤秀文 45
- 平川俊彦 45      福留久大 45      松尾尊兌 45

月報追補

「福本イズム」を大震災後に読み直す……………  
 福本和夫とルカーチー——亡き石堂清倫さんとの対話……………

加藤哲郎 46  
 丸山珪一 48



それをふまえながら、中国山地の奥の方を歩き回っておりま  
す。そのついでに山菜採りもやっておりますけれど。という  
ようなことで、これからもずっと福本和夫という人は、私に  
類する人には伝わっていくんじゃないかと思えます。短くせ  
よということでしたので、これでおわります。(笑)

(地域社会総合研究所代表)



『日本ルネッサンス史論』刊行の記念碑と福本和夫氏

司会 ひき続きドンドン行きます。つぎは加藤哲郎先生。

#### 加藤哲郎

ひとり三分ということですから短く行きます。こういう時  
代にこういう著作集を出されたことに、心より出版社と  
編集関係者のみなさんに敬意を表したいと思います。こうい  
う時代と言いますのは、私は昨年一橋大学を定年退職しまし  
て、今年から早稲田大学に移ったのですけれども、およそ学  
生たちにマルクス主義の古典は読まれない、売れない時代と  
いうことです。私の関係したものでいえば、アントニオ・グ  
ラムシやローザ・ルクセンブルクの著作集は、途中まで仕事  
が進んでいたので完結できない。それなのに、なぜか  
福本和夫著作集は完成できたという意味で、敬意を表します。  
もう一つ福本に関係することです。今日配られたものに  
「月報補遺」がございます。私はこの間月報執筆を頼まれて  
いたんですけれども、その度にヨーロッパ・中国・メキシコ  
と外国に行っておりまして、後れて今日の集会のために短文  
を書く羽目になりました。そこにも書きましたが、申し上げ  
たいことがあります。

一つは旧ソ連秘密文書のことです。「福本イズム」が先程  
から話題になっておりますが、これを研究する絶好の資料が、  
旧ソ連コミンテルン文書館にある日本共産党の報告書類です。  
この著作集にもほんの一部入っていますが、「黒木」という



党名の論文が多数あります。  
黒木批判もいっぱいあって、  
全部で千頁くらいになる。  
「旧ソ連秘密文書」の日本  
共産党関係で一番充実して  
いるのが、一九二五年から  
一九二八年まで、つまり福  
本イズムから二七年テーゼの時代です。ところがこれを利用  
した研究は全然ありません。一九二四年の第一次共産党解党  
のところまでは研究されているんですが、その後はみんなの  
関心を引かなくなって、とりわけ若い研究者がいなくて、資  
料は膨大にあるのに完全に眠っている状態です。これを研究  
してくれる若者が出てくるのを、期待したいと思えます。コ  
ミンテルン日本関係文書は、私の所にもありますけれども、  
東大、北大、早稲田、一橋、同志社大等々の図書館にはいっ  
ていますから、ぜひ研究されることを期待します。

もう一つ申し上げたいと思えます。私は「3・11」東日本  
大震災をメキシコで迎えたんですけれども、そのあとで「月  
報(補遺)」を頼まれたので、考えました。関東大震災の時  
福本和夫はどこにいてどうしたのだろうと。さっきの外国か  
らのメッセージにあったように、一九二三年九月の関東大震  
災時、福本はコルシユの弟子として一所懸命勉強しているわ  
けです。当時の日本社会主義の中心的指導者は山川均です。

山川は、横浜の家が焼かれて神戸に疎開しました。その後一  
年半以上神戸にいたため、東京の論壇では活躍できません。  
影響力が弱くなります。堺利彦は、幸か不幸か、第一次共産  
党事件で検挙され獄中にあつたために助かりました。荒畑寒  
村は、当時モスクワにおりました。モスクワで東京潰滅の報  
を聞いて、急遽日本に帰国しますが、東京は焼け野原になり、  
同志たちは弾圧を恐れ解党を議論していました。福本和夫は  
その間、そのままドイツでマルクス主義の文献研究を続けた  
ことになりました。

ところが関東大震災は、書き手だけではなく、読み手の方  
の思想状況も変えてしまうわけです。首都の壊滅と大杉栄や  
朝鮮人の虐殺で、若者たちは、山川均の共同戦線論ではも  
たりなくなつた。翌年、福本が帰ってきて、ドイツで勉強し  
た最新の理論を紹介する。つまりヨコ文字をタテにしたら  
これが大正デモクラシーで育ったけれども山川イズムにはあ  
きたらない若者たち、震災後にセツルメント活動などで実践  
をはじめた東大「新人会」など若い左翼グループに受容され  
るわけです。中野重治『むらぎも』の描く世界であり、浦  
和高校にいた後藤新平の孫佐野碩は、左翼演劇運動に加わり  
「インターナショナル」を訳すまでになる。

逆の事例もあります。画家の竹久夢二は、それまで大正  
ロマンの美人画で売れてたんですけれども、震災とともに  
まったく売れなくなつた。それで彼は、先祖返りをする。夢

二はもともと『平民新聞』の挿絵画家で荒畑寒村と同居していたのですが、あらためて社会主義を学び、油絵を勉強しようと思っしアメリカ、ドイツに外遊する。

このように、一九二五年から一九二六年、つまり福本イズムが日本で流行した時代は、震災後状況、関東大震災後の廃墟から復興の思想的再編期でした。したがって、福本が何を言っただかということよりも、言った内容がどのように受けとめられたのかということが、私は福本イズム研究にとって重要だと思えます。そして、この状況がはたして現代にも通用するのかが、『福本和夫著作集』が若者に受け入れられるのかということ、関東大震災と今回の東日本大震災の歴史の違いがわかる、これ自体が、研究対象になるでしょう。以上です。

(二橋大学名誉教授、早稲田大学教授)

司会 ありがとうございます。続いて中村英樹先生をお願いします。

### 中村英樹

まさか私が指名されるとは思っていなかったので、片隅にいます。何の用意もしてません。それに、福本和夫研究者の端くれでも何でもありませんので、その点をはじめに申し上げておきます。ただ一つお話しするとすれば、月報にも書

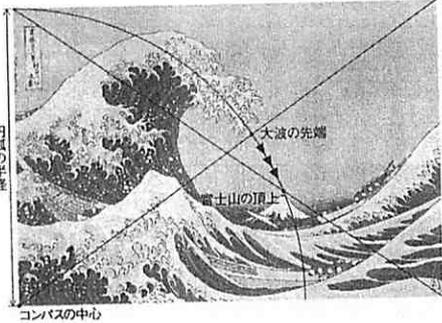
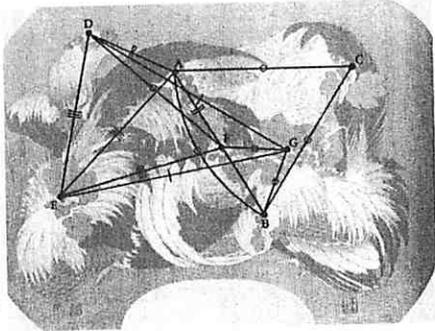
かせていただいたのですが、私が福本和夫先生と出会ったのは実は一枚の北斎の絵の分析からでした。つまり、「凱風快晴」という北斎の絵の分析で富士山を幾何学的にとらえていらっしやる。獄中でそれをなさったわけですから、それをみて、「これはすごい」と思ったわけです。私は現代美術の批評をずっとやってきましたが、そこで考えさせられたことは、日本が明治以来、ポップアートもそうなんですけれども、西洋のものを受け入れるだけで日本からは発信しない点です。それから、一八六八年を境にして前は古い時代では新しい時代だという、こういう固定観念があるわけです。それに引っかけかかっていた時に、北斎の分析を実証的にやりながら、主体的なモチベーションをもって自分の問題として立ち上げていくというように、学究の問題と主体の問題を一つに



していらっしやる、その辺のところ、「うん、これは！」と思って、真似をして、ある絵を見たわけです。それは東京国立博物館にある團扇絵「群鷄」で、北斎が鶏を七羽描いているんです。ご存知のように、七羽の鶏の七つの目は、北斎の号が意味する北斗七星な

んです。それをじっと見ていました。ものの本には、「奇矯な絵だ」「エキセントリックだ」と書いてあるんですけども、これは福本先生に做ってじっと見ていると何か出てくるに違いないと思っただけです。見ていてわかったんです。目と目を定規で結んでみると、びったり等距離で正三角形や二等辺三角形になるんです。

で、福本先生の真似をして、次から次にやっていると、例の「神奈川沖浪裏」という絵が——これはNHKの番組でもお世話になりましたが——わかりました。まず、画面四隅を対角線で結びます。それで左の隅にコンパスの中心を置いて、縦の長さを半径に



して円を描きますと、対角線との二つの交点が出て来ます。そのうち上の交点が大きな波のその先端であって、下の交点が富士山の頂上です。波が富士山に掛かる動きを心理的に見せるといふ工夫を北斎はきちっとやっているわけです。そのほか、西洋の透視図法に学びながら、それだけではなく多視点的な見方をあの絵の中に込めているということがわかったのは、実はもともとは福本先生のおかげです。私にとっては偶然の出会いです。本当に偶然というのは恐ろしいなと思えますが、私を引き寄せる何かがあったのかなあと思っているわけです。長くなってすみません。どうも。(拍手)

(名古屋造形大学名誉教授)

司会 それでは引き続きまして、夏石番矢先生！

### 夏石番矢

えっと、実はこぶし書房というのはクロカンさんの本を出している危険な出版社だという人がいます。(笑)。ま、そんなことはないと思いますけれども。知っている人がひとりもない会だろうというので、恐る恐るまいりました(笑)。臆病な人間です。関西の、西日本の言葉が——今日は福本先生のご出身の鳥取の方がいらっしやうって——聞けてほっとしております。大地震の後、その、郷里の兵庫県相生市に

「福本イズム」を大震災後に読み直す

加藤哲郎

福本和夫は、一九二三年関東大震災の知らせを、異郷の地で知った。山川均は家を失い神戸に疎開した。堺利彦は獄中であつたため無事だつた。モスクワにいた荒畑寒村は、日本壊滅の報にすぐさま帰国を決意した。『寒村自伝』に「大震災と解党問題」を記した。

関東大震災後の日本の社会思潮を席卷した「福本イズム」を、東日本大震災・福島原発震災後の視点から改めて研究する、若い研究者はいないだろうか。一九八九年の東欧革命、九一年ソ連解体以降、社会主義・共産主義、日本共産党やマルクス主義の研究は、すっかり衰退産業になった。アナ・ボル論争も、山川イズム対福本イズムも、二七年テーゼも三二年テーゼも忘れ去られた。戦後のある時期、日本の歴史学・

社会科学で圧倒的影響力を持った講座派と労農派の日本資本主義論争さえ、東西冷戦も知らない学生たちには、遠い昔の話になつた。だが、本格的日本資本主義研究が関東大震災後に始まつたように、今日の時点で二〇世紀日本の社会運動を振り返り、社会と国家の「方向転換」のために、山川均や福本和夫を再考しようとする若者は、出てこないのだろうか。

私は、冷戦崩壊まで、主として理論的にコミンテルンやマルクス主義を研究してきた。旧ソ連崩壊でコミンテルン関係の秘密文書が大量に現れたのを機に、モスクワで肅清された日本人の記録を追いかけるようになった。アメリカやドイツ、イギリスの公文書館にも足をのびし、第二次世界大戦・戦後占領期の歴史を見直す過程で、かつてはアクセス不能だった大量の第一次資料を見出した。日本共産党史についても、ようやく歴史的に再検証する資料的条件が整つた。にもかかわらず、それを用いる研究者は、激減している。

ロシア革命から日本共産党創立の時期については、かつて私も新資料を紹介し、九州大学山内昭人教授や神戸大黒川伊織さんらの新たな第一次共産党研究が生まれている。しかし関東大震災から第一次共産党の解党、二六年末五色温泉再建党大会、二七年七月テーゼ、二八年三・一五事件に至る時期については、私の知る限り、若手の研究者はいない。実はこの時期こそ「福本イズム」の全盛期で、旧ソ連共産党文書館所蔵日本共産党関係文書が最も豊富で充実しているのだが。

いくつか、事例を挙げてみよう

第一に、福本和夫が実質的中心になる五色温泉再建党大会「第三回大会」とされているが、それは正確ではない。旧ソ連秘密文書には、一九二三年一〇月二二日、関東大震災後の戒厳令下で開かれた党大会の記録がある。そこでは沖繩出身の饒平名智太郎が総幹事委員長に選ばれた（拙稿「第一次共産党のモスクワ報告書・下」『大原社会問題研究所雑誌』四九二号、一九九九年一月、資料三四）。第一次共産党事件で堺利彦ら幹部は獄中にあり、荒畑寒村らはソ連滞在中で実践的活動はできず、そのまま解党につながつた。その後の「上海テーゼ」やモスクワとの連絡については、拙稿「体制変革と情報戦——社会民主宣言から象徴天皇制まで」（岩波講座『帝國』日本の学知）第四巻、岩波書店、二〇〇六年）にいくつか新資料を紹介し略述した。

第二に、一九二六年二月四日の五色温泉大会については、大丸義一氏により「立党宣言・規約」が紹介された（『大原社会問題研究所雑誌』五七九号、二〇〇七年二月）。モスクワに保存されていた大会記録の束には、一緒に二二年九月英文「日本共産党創立綱領」の日本語抄訳が綴じ込まれていた。私は山川均執筆と推定して社会主義協会の講演で紹介し、後に『情報戦と現代史』（花伝社、二〇〇七年）に収録した。つまり福本和夫執筆「立党宣言」はモスクワのコミンテルン執行委員会に送られ、山川均の「創立綱領」と比較考量された。

日本人共産主義者により日本語で起草され採択された第二の綱領的文書である。そのいずれもが、フーバーリン執筆のソ連製「二七年テーゼ」により退けられた。

第三に、「二七年テーゼ」作成過程の資料は、モスクワに大量に残されている。これまで村田陽一『初期日本共産党とコミンテルン』（大月書店、一九九三年）所収史料が定番とされてきたが、それはごく一部である。例えばファイルの冒頭に、福本自身が「福本イズム」の命名者と特定する北浦千太郎が、「野口」の党名で「同志クーシニ」「ネ」に宛てた一九二七年一月三一日付手紙がある。『無産者新聞』編集長だった北浦は、五色温泉大会準備過程での「中央委員でなない黒木「福本和夫」が中央委員の上に位する」状態を告発し、経費や会議運営の問題点を述べ、福本と自分の見解を対比する詳しい一覧表を付していた。山川・福本両者を含む日本共産党代表団モスクワ召集に影響しただろう。カール・ヤンソンが山川均に福本についての見解を求めたのは（『山川均自伝』岩波書店、一九六一年、四二三頁菊栄追記）、この直後のことである。

第四に、モスクワ滞在中の日本共産党幹部九名全員の署名による「同志フーバーリン」宛手紙がある。片山潜から福本和夫まで、自筆の奇妙な連判状を書いた。それは一九二七年六月一日日付で「日本問題の政治テーゼを起草してほしい」という嘆願状だった（『情報戦と現代史』五四頁）。山川は、病氣

# 福本和夫著作集 全十卷

編集委員 石見尚（代表）、清水多吉、八木紀一郎、小島亮  
推 薦 鶴見俊輔、蓮實重彦、清水多吉、鎌田慧、鷺田小彌太



- |     |  |         |
|-----|--|---------|
| 第一卷 | マルクス主義の理論的研究 I   | 7,245円  |
| 解題  | 八木紀一郎（経済思想史研究者・摂南大学教授）   |         |
| 第二卷 | マルクス主義の理論的研究 II  | 7,245円  |
| 解題  | 伊藤晃（日本社会運動史研究者）  |         |
| 第三卷 | 初期文化史研究  | 6,510円  |
| 解題  | 鎌田道隆（奈良大学教授）、鶴見太郎（早稲田大学文学部准教授）<br>春名徹（日本海事史学会会員）、前田勉（愛知教育大学教授） |         |
| 第四卷 | 農林業論   | 9,450円  |
| 解題  | 石見尚（日本ルネッサンス研究所代表）   |         |
| 第五卷 | 葛飾北斎論  | 5,880円  |
| 解題  | 松枝到（和光大学教授）  |         |
| 第六卷 | 中国思想の位相論   | 8,190円  |
| 解題  | 石川九楊（書家・京都精華大学教授）<br>石見尚（日本ルネッサンス研究所代表）<br>阿部幹雄（一橋大学大学院博士課程）   |         |
| 第七卷 | カラクリ技術史 捕鯨史  | 9,660円  |
| 解題  | 立川昭二（北里大学名誉教授）<br>中岡哲郎（大阪市立大学名誉教授）<br>二野瓶徳夫（元国立国会図書館専門調査員）     |         |
| 第八卷 | 獄中思索 私の辞書論   | 5,460円  |
| 解題  | 高野修（時宗宗学林講師）、紀田順一郎（評論家・作家）                                     |         |
| 第九卷 | 日本ルネッサンス史論   | 10,290円 |
| 解題  | 清水多吉（立正大学名誉教授）   |         |
| 第十卷 | 自主性・人間性の回復をめざして  | 5,880円  |
| 解題  | 鷺田小彌太（札幌大学教授 哲学）   |         |

『福本和夫著作集』完結記念の集い 報告集 ©

2011年10月10日 発行

編集 「福本和夫著作集完結記念の集い」実行委員会  
代表 石見 尚

発行 有限会社こぶし書房  
〒113-0021 東京都文京区本駒込3-4-1-101  
電話 03(3823)0524 FAX 03(3823)0527

Printed in Japan 2011 落丁・乱丁本はお取り替えます。

を理由にモスクワに行かず、そのまま日本共産党を離れた。福本は、コミンテルンの指令に応じ、自己批判をしながら党規律を守り、獄中一四年、戦後も共産党に復帰した。

「山川イズム対福本イズム」は、一九二〇年代の一時期に留まらず、二〇世紀日本社会主義全体の評価に関わる。そこに震災の現地体験と異郷体験がどこまで影を落としかは定かでないが、ちなみに私は三・一一を異郷メキシコで知り、政治と政治学の非力を痛感した。自然の猛威や科学技術の災禍は、時に「革命」や「ルネッサンス」をもたらず。

これらの第一次資料は、かつてはモスクワまで出かけ集めなければならなかったが、二〇〇四年に Comintern Archives: Files of Communist Party of Japan としてオランダから発売された。日本でも国立国会図書館、北海道大、早稲田大、同志社大等で見ることができる。「福本イズム」の歴史的評価は、それからでも遅くはない。

(かとう てつろう・一橋大学名誉教授 早稲田大学客員教授)

ここに書き記すのは、石堂さんにお尋ねしたいと思っていたこととつかかりの部分で、ルカーチと福本の理論的關係を突き詰めるにはいまだ道遠い。

石堂さんの問題意識の大筋は、一九二〇年代から三〇年代にかけて、運動の主たる場も思想的個性もかなり異なるルカーチ、コルシユ、グラムシ、福本和夫の四人に、社会民主主義ともスターリン主義の隘路にはまり込んだソ連型社会主義とも区別された、もう一つの道の探究という点での並行關係を認め、現時点から改めてそれぞれの思想家の仕事や彼らの相互關係と取組み、今後の新たな社会変革コースの探究の資にしようということにあった。「実践の哲学」というグラムシの言葉がそれをよく言い表わすだろう。彼らをフランクフルト学派につなげて「西欧マルクス主義」で括る解釈にはあまり関心を示されなかったと思う。石堂さんはわけてもグラムシの仕事の解明に大きな期待と意欲を持っておられたが、ここでの文章としては、ルカーチと福本に明瞭な理論的關係が見て取れるにもかかわらず、その關係の解明がそれほどには進んでいないという思いから、その仕事を鼓舞しようということだったろうと私は受けとめている。

ルカーチ、コルシユ、福本和夫は一九二三年五月のいわゆる「マルクス主義研究週間」の集まりでいっしょになったが、彼ら相互の個人的な關係となると、コルシユと福本の關係を除いては、ほとんど分かっている。コルシユとルカーチに

## 福本和夫とルカーチ

—亡き石堂清倫さんとの対話

丸山珪一

ルカーチと福本和夫の関わりについて何か書けという依頼を受けたとき、反射的に石堂清倫さんの「ルカーチと福本の道」と題する論考が頭に思い浮かんだ。かつて大阪の『季報唯物論研究』誌第八六号(二〇〇三・一一)で「振り返ってみたルカーチ」という特集をした際、書いてくださったもので、それまで何度か話題に上っていたにもかかわらず、まとまった形で石堂さんがどんなふうを考えておられるのか、必ずしもはつきりしていなかった。嬉しい原稿だった。これをもとにいずれ改めてゆっくり話をお聞きしようというつもりでいたが、私の事情で雑誌に出るまでにずいぶん時間がかり、「ゆっくり」という時間はなく、雑誌にはすでに遺稿として掲載せざるをえない羽目になった。その慙愧の念が心の底に残っていて反射的に浮かび出たにちがいない。その後石堂さんの論考は、小島亮編『福本和夫の思想』(こぶし書房)に再録されたから、お読みの人も多いと思う。こ

しても、顔合わせはおそらくこれが初めてで、ここでの深い議論がバネになって急速に親しくなったのでないだろうか。聖霊降臨祭のピクニックを兼ねたとおぼしき、このユニークな会合はそもそも誰の人選によるものか。ルカーチは偽造パスポートを使ってヴィーンからやって来たはずで、ちょうど『歴史と階級意識』が出たばかりの頃だから、どの参加者にもまして意気盛んだっただろう。福本はルカーチをここで知り、「歴史と階級意識」の献呈を受けたと思われる。この集まりに対する福本の評言も、ルカーチがずば抜けていたというもので、ここで受けた鮮烈な印象を機に、その後『歴史と階級意識』の集中的な読み込みが開始されたにちがいない。福本はまもなくパリに移るから、これはパリでもしばしば続けられたかもしれない。福本が文中に直接ルカーチの名を挙げているのは、組織問題に関する論文と河上肇批判でマツハ主義に言及した箇所くらいしか思い当たらないが、初期著作のそこそこに、また言葉遣いにルカーチ的発想が垣間見える。核心は、社会を総体性とその生成において捉える方法的視点にある。福本のこのルカーチ受容に石堂さんが神田襄太郎という東京帝大同期生の強い関与を示唆されたのは私には思いがけないことだった。神田がベルリンの日本大使館に勤務中、文部省留学生としてやってきた福本に何かと協力をしたという。福本はイエーナを引き払ってパリに行く前、實際ベ

を理由にモスクワに行かず、そのまま日本共産党を離れた。福本は、コミンテルンの指令に応じ、自己批判をしながら党規律を守り、獄中一四年、戦後も共産党に復帰した。

「山川イズム対福本イズム」は、一九二〇年代の一時期に留まらず、二〇世紀日本社会主義全体の評価に関わる。そこに震災の現地体験と異郷体験がどこまで影を落としたかは定かでないが、ちなみに私は三・一一を異郷メキシコで知り、政治と政治学の非力を痛感した。自然の猛威や科学技術の災禍は、時に「革命」や「ルネッサンス」をもたらず。

これらの第一次資料は、かつてはモスクワまで出かけ集めなければならなかったが、二〇〇四年に Comintern Archives: Files of Communist Party of Japan としてオランダから発売された。日本でも国立国会図書館、北海道大、早稲田大、同志社大等で見ることができる。「福本イズム」の歴史的評価は、それからでも遅くはない。

(かとう てつろう・一橋大学名誉教授 早稲田大学客員教授)

## 福本和夫とルカーチ — 亡き石堂清倫さんとの対話

丸山圭一

ルカーチと福本和夫の関わりについて何か書けという依頼を受けたとき、反射的に石堂清倫さんの「ルカーチと福本和夫の道」と題する論考が頭に思い浮かんだ。かつて大阪の『季報唯物論研究』誌第八六号(二〇〇三・一一)で「振り返ってみたルカーチ」という特集をした際、書いてくださったもので、それまで何度か話題に上っていたにもかかわらず、まとまった形で石堂さんがどんなふうを考えておられるのか、必ずしもはっきりしていなかった。嬉しい原稿だった。これをもとにいずれ改めてゆっくり話をお聞きしようというつもりでいたが、私の事情で雑誌に出るまでにずいぶんと時間がかり、「ゆっくり」という時間はなく、雑誌にはすでに遺稿として掲載せざるをえない羽目になった。その慙愧の念が心の底に残っていて反射的に浮かび出たにちがいない。その後石堂さんの論考は、小島亮編『福本和夫の思想』(こぶし書房)に再録されたから、お読みの人も多いと思う。こ

## 【福本和夫著作集】完結記念の集い 報告集 ©

2011年10月10日 発行

編集 「福本和夫著作集完結記念の集い」実行委員会  
代表 石見 尚

発行 有限会社こぶし書房  
〒113-0021 東京都文京区本駒込3-4-1-101  
電話 03(3823)0524 FAX 03(3823)0527

Printed in Japan 2011 落丁・乱丁本はお取り替えます。